

研修テーマ	「サクラの園芸品種の系統による特性」 サクラの品種の同定と性質の違い	参加者	埼玉支部 19名、 他支部 6名・一般 4名
講師	和田博幸氏 (公財)日本花の会主任研究員・ 樹木医(群馬県支部会員)	場所	茨城県結城市田間 2,217 (公財)日本花の会結城農場
資料	サクラの園芸品種の系統による特性ほか	記録	田窪隆彦
目的	品種毎の特性を知ることにより、植栽の計画や維持管理に資する基礎知識の習得をする。		

研修内容

○サクラの品種特性についての解説

日本のサクラの系統別の特性を記した資料を基に野生のサクラ、サクラの形態、同定のポイント、園芸品種の特徴 etc. 見本園で開花しているサクラを観察しながら品種ごとの特徴について解説を受けた。

ポイントとしては、花が類似していても、細部の違いにより別の系統であることが判明するそうだが、専門家でも同定は難しいという。



桜並木の見本園での講義風景



品種見本園での講義風景

○生産・育種の解説

苗木生産圃場では、台木の生産方法、接木の方法(芽接、切接)など苗木の生産方法の他、畑の管理方法などについても解説を受けた。

解説のポイントは、以下のとおり。

- ・生産する品種によって台木はエドヒガンかオオシマザクラで使い分ける。
- ・忌地現象を起こすので、連作は行わない。
- ・苗木の生産には最短で2年を要し、出荷時に樹高4.0m、幹周20cm程度の苗木にするには5年程度を要する。



苗木生産圃場での講義